ハートフォード病院図書館を訪ねて

A Visit to the Hartford Hospital Health Science Libraries

スナイダー A. 純子*

I. はじめに

日本やアメリカの医学図書館の友人達に、今年こそは出席すると言っておきながらやはり出かけなかったサンフランシスコのMLA総会。参加すれば得ることがたくさんあることは充分にわかっていながら、子育てに追われ出不精になり、非常に後めたい気のするこの頃でした。そんな時に東京から伝わってきた噂。東京厚生年金病院図書室の石澤實枝さんもMLA総会に出席するか否か迷っているとか。結局、石澤さんを口説き落とし、サンフランシスコのかわりに、8月初旬にニュージャージーの我家に立ち寄ってもらい、ハートフォード病院図書館に Dr. Lamb を訪ねることにしました。私は2歳半になる娘を主人の実家に預け、身軽になっての3年ぶりのハートフォード訪問です。

II. ハートフォード再訪

以前はよくマンハッタンのダウンタウンにあるポートオーソリティと呼ばれる長距離バスのりばから、1人でハートフォードまでバス旅行したものでした。ところが、この頃のポートオーソリティ近辺の治安の悪さを聞くにつけ、今回は Penn Station からの Amtrack による列車の旅と相成りました。エール大学のあるニューヘイブンで

列車はボストン行きとハートフォード方面行きに分かれます。マンハッタンからハートフォードまでは3時間位。日本でいう急行の旅のような感じです。むしろ、日本の列車や新幹線よりも座席がゆったりしているので、急がなければアメリカの列車の旅も楽しいものです。コネティカット州もほかの東部諸州の例にもれず、不景気の波に直撃されています。以前は軍事産業と各種保険産業のお陰で税金も安く、豊かな州の一つだったのですが、軍事産業の縮小とアメリカ版バブル経済の破綻で、この頃、州都であるハートフォードから聞こえてくるニュースは景気の悪い話ばかりです。しかし、3年ぶりのハートフォードは駅近辺は立派に改築、整備されており、病院にも大きな外来棟が完成しており、以前より活気があるように通りすがりの私の目には写りました。駅には Dr. Lamb が迎えに来てくれていました。その日は石澤さん、息子さんの岳君、それに私の3人は Dr. Lamb のお宅に泊めて頂き、翌日、ハートフォード病院図書館を訪ねました。

写真1. Medical Library のスタッフ達と。
石澤さんの隣が責任者の Dr. Lamb

* Junko A. SNYDER : 40 Reaganway Washington, Township, N.J. 07675, U.S.A.

(1991年10月16日 受理)

Ⅲ. ハートフォード病院図書館

ハートフォード病院は1854年に創立されたコネティカット州で一番古く、最大の病院です。現在、その病床数は約1,000床、医師数は900名位とのことです。コネティカット大学医学部の教育病院でもあります。

Hartford Hospital Health Science Libraries は、四カ所の図書室を総称して呼ばれています。診療に必要な情報を病院スタッフに提供するための Medical Library。看護情報、その他の部門の様々な医療従事者、病院の運営管理に必要な情報を提供するための Robinson Library。The Gerontology Resource Center では老人・老年学に関する文献が収集されています。そして州内で最も古い病院であるため、Archives（記録・古文書管理室）が Medical Library の一角に設置されており、いかにも Archivist といったイメージの長いあごひげのスティーブさんが、病院の歴史を形づくる古文書、記録、絵の類を収集し、管理しています。

この Health Science Libraries には、1980年度のMLA会長でもあった Dr. Gertrude Lamb を director に、ライブラリアン7名、ライブラリーアシスタント4名、Archivist 1名、秘書1名、その他、パートタイムスタッフを含めると総勢23名が勤務しています。Dr. Lamb はまた、クリニカル・ライブラリアン（以下CML）のプログラムをカンサス市のミズーリ大学にいた時にスタートさせたことでも良く知られています。ハートフォード病院では、Dr. Lamb が図書館責任者になってから、1974年に小児科担当のCMLがはじめて誕生しています。現在は、小児科、内科そして外科担当の3名のCML達が各々担当のチームメンバー達に情報提供を行っています。アメリカの職場は人の入れ変りの激しい所です。図書館も例外ではなく多くの図書館員がより良いポジショ

写真2. CD-ROMで文献検索を行っている
図書館利用者と筆者

ンと給料を求めてどんどん移動して行きます。今回も7人のライブラリアンのうち、5人までが私には新しい顔ぶれでした。それでも全体としては未だ、1/3ほどのスタッフが私の顔を覚えていてくれ、古巣に戻ったような気になりましたが、同時に Dr. Lamb が引退してしまったら、もう今までのように気楽には訪ねてこれなくなるかもしれないと、ふと、心寂しい思いにとらわれました。

私がはじめてハートフォード病院図書館をおとずれたのは1977年の夏。それ以来、五回ほど再訪のチャンスがありましたが、いつ訪れても何かが少しずつ変わっている所です。今まで二度、大規模な増改築が行われた Medical Library でしたが、今回もまた、少し様子が変わっていました。レファレンス・ライブラリアン用のガラス張りの個室の隣にCD-ROMが設置され、図書館利用者の1人が慣れた様子で検索を行っていました。更に以前はカンファレンスルームとビデオルームだった部屋が、寄附者の名前をとって Pyrteck Learning Resource Center に改造されるとかで、改造準備がはじまっていました。来年の夏頃、完成予定で、CD-ROM、他のコンピュータ機器が設置され、それらの利用方法を指導するライブラリ

アンが1名配置される予定だと聞きました。

ところで話は少しずれますが、ハートフォード病院図書館、ボストンのマサチューセッツ総合病院図書館、あるいはニューヨークのスローンケタリング癌センター図書館、モンテフィオーレ病院図書館、そして本誌にも寄稿したエレン・ボワソンさんが director のベスイスラエル病院図書館等々。いくつか、今思いつくままに名前を挙げてみましたが、これらの図書館はもちろん、病院図書館のカテゴリーに入ります。しかしながら、日本で一般的に考えられる病院図書室のイメージとは大分異なっています。日本の大学図書館の中にも、これらの大病院図書館と同じような規模の図書館が見つかるかもしれません。しかし、これらの大病院図書館の数はアメリカでも多くはなく、一般の病院図書室の多くは日本と同様に、人手不足に資料不足、そして施設の貧弱さの悩みをかかえているようです。小病院図書室をサポートするための Consortium の歴史はアメリカでは歴史は古いのですが、それでも以前のネットワーク作りは頼られる側の負担をいかに軽くしながら相互協力を行うかに主眼が置かれ、システムが作られていた気がします。近年、大きな図書館が自館のサービスを外部に売るという考え方が一般的になりつつあるようで、ハートフォード病院でも自館

のスタッフ、設備、資料をより効果的に活用しようとの考えに基づいて新しいサービスが始まっていました。全く同じ内容ではありませんが、同様な考え方で、マサチューセッツ総合病院図書館でも5年前に特に文献検索サービスを中心に図書館サービスを病院外にも拡げていたことを思い出しました。

IV. 病院外への図書館サービスの拡大

ハートフォード病院のはDLIS (Division of Library Information on Services) と呼ばれるもので、Dr. Lamb のもと、associate director の1人である Mrs. Virginia Corcoran (私達はジンジャーと呼んでいます) が、実行責任者になっています。ジンジャーの仕事は伝統的なイメージのライブラリアンではなく、サービスを売り込み、それらの加盟メンバー間、そしてハートフォード病院間の間をうまくコーディネートするというように、どちらかというMBA (経営修士) を持っていたほうが良いのではないかと思えるほどです。ハートフォード病院図書館のCD-ROM, OCLC システム等の設備、人材、資料を有効的に活用し、サービスを希望する病院図書室を募り、ネットワーク作りが行われます。現在、コネティカット州内の5病院図書室がこのDLISの加盟メンバーになっており、有料でサービスを受けています。ハートフォード病院図書館にはCD-PLUSのCD-ROMが入っており、加盟メンバーとの間で Plus Net System が形成されています。一度に4人のuserがCD-ROMを利用できるので、おのおのの加盟図書室からハートフォード病院のCD-ROMを共有できる仕組みです。DILSの加盟図書室はハートフォード病院のOCLCを通して、主要な書店に書籍注文の依頼もできますし、更に目録カード作成やラベルの作成も依頼することもできます。新しいスタッフの教育は小図書室にとっては大仕事で

写真3. 看護系図書室の Robinson Library
のスタッフ達と石澤さん

すが、これもハートフォード病院図書館に依頼することができますし、また、ハートフォード側でも病院図書室運営管理に関してのコンサルタント業務を行ってもあります。もともとコネティカット州では早くから病院図書室間での Consortium ができていましたが、このDLISはサービスの受け手のみならず、提供する側にとってもプラスになると考えられている点が、興味深く思えました。このDLISプログラムは従来の図書館スタッフで行われており、このために増員が行われた様子はありません。いくら有料サービスとはいえ、自分達の職場の仕事のみならず、他の5病院図書室にまでサービスを提供するのは、現場のスタッフが忙しくなるだけではないのかと、意地悪い質問を文献検索担当のケリーとOCLC担当のカタローグ、マリアンにぶつけてみました。2人の答はこうでした。「確かに忙しく大変になったけれど、ハートフォード病院だけより幅広いリクエストがくるので、ライブラリアンとしてのキャリアにとってはプラスになるし、それは結局、将来、ほかの図書館に職を見つける時に有利になると思う。また、赤字のために人員整理が頻繁に行われるこの頃の

アメリカの病院では、図書室はお金を使うばかりでなく、収入もあげられる部門だということを病院上層部に知ってもらえることは、予算獲得に有利なだけでなく、長い目で見れば図書館員の地位安定につながる所以このDLISは提供する側にとってもメリットのあるサービスと言えると思う。」これを聞いてプロフェッショナルなアメリカの図書館員の姿を垣間みた気がしました。

V. おわりに

ハートフォード病院図書館の現在のモダンな基礎は Dr. Lamb の前任者であった、現在、マサチューセッツ総合病院図書館の director で、MLA会長でもある Jackie Bastille 女史によって築かれたものです。Dr. Lamb に引き継がれてから、建物もサービスも更に拡大して来ました。来年あたり、引退を考えているという Dr. Lamb。次回、ハートフォードを訪れる時にはどう変わっているかと思いつつ、短い図書館訪問を終え、ハートフォード駅からマンハッタン行きの列車にのり帰途につきました。